平成28年６月2日

各　位

会 社 名　株式会社ＭＡＧねっとホールディングス
代表者名　代表取締役社長　大島　嘉仁
（コード：８０７３）
問合せ先　取締役業務部長　吉田　智大
（TEL.０３－５６４３－０６２０）

（訂正）「平成27年3月期第3四半期決算短信［日本基準］（連結）」の一部訂正について

当社は、平成27年1月28日に発表した第40期第3四半期決算短信について訂正がありましたのでお知らせします。

なお、訂正の経緯、内容につきましては、平成28年4月28日付「過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出予定ならびに過年度決算短信等の訂正予定に関するお知らせ」及び6月1日付「過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出に関するお知らせ」をご参照ください

訂正の箇所を明確にするため訂正後及び訂正前の全文をそれぞれ添付し、訂正箇所には＿を付して表示しております。

以　上

（訂正後）

平成27年３月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年1月28日

上 場 会 社 名　株式会社ＭＡＧねっとホールディングス　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　8073　URL　http://www.magnet-hd.co.jp
代　表　者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）大島　嘉仁
問合せ先責任者　（役職名）取締役業務部長　（氏名）末松　知史　（TEL）03-5643-0620
四半期報告書提出予定日　平成27年2月13日
配当支払開始予定日　－
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

（百万円未満切捨て）

１．平成27年３月期第３四半期の連結業績（平成26年４月１日～平成26年12月31日）

（１）連結経営成績（累計）　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年３月期第３四半期	192	△7.8	△103	—	△1,130	—	△1,133	—
26年３月期第３四半期	208	△18.9	△260	—	△192	—	△210	—

（注）包括利益　27年３月期第３四半期　△64 百万円（　— %）　26年３月期第３四半期　△261 百万円（　— %）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円　銭	円　銭
27年３月期第３四半期	△3.33	—
26年３月期第３四半期	△10.80	—

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年３月期第３四半期	2,863	1,500	52.4
26年３月期	4,071	2,633	64.7

（参考）自己資本　27年３月期第３四半期　2,568 百万円　26年３月期　2,633 百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭
26年3月期	－	0.00	－	0.00	0.00
27年3月期	－	0.00	－		
27年3月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．平成27年３月期の連結業績予想（平成26年４月１日～平成27年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円　銭
通期	245	△17.1	△131	—	△78	—	△80	—	△4.11

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動　：　無

（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規　　社（社名）　　、除外　　社（社名）

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年３月期３Ｑ	19,455,339株	26年３月期	19,455,339株
②　期末自己株式数	27年３月期３Ｑ	907株	26年３月期	830株
③　期中平均株式数（四半期累計）	27年３月期３Ｑ	19,454,476株	26年３月期３Ｑ	19,454,541株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表の四半期レビュー手を実施中です。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料３ページ「（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．サマリー情報(注記事項)に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益及び包括利益計算書 …… 5
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 6
（継続企業の前提に関する注記） …… 6
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 6
（セグメント情報等） …… 6

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間（平成26年４月１日から平成26年12月31日まで）のわが国経済は、緩やかな回復基調が続いたものの、消費増税に伴う駆け込み需要の反動の影響に加え、急速な円安による物価上昇などで個人消費に弱さがみられました。今後、原油価格の下落や日銀の追加量的緩和効果による景気押し上げが期待されますが、先行きに対する不透明感も残っております。

このような状況の下、当社グループは、引き続き主力の債権回収事業に経営資源を集中させ、収益力の改善と安定的な事業運営体制の構築に取り組んでおります。

サービサー業界におきましては、債権入札時の価格競争の熾烈化に伴う仕入価格上昇や回収期間の長期化により買取債権の量・質が低下している影響を受けて、経営環境は依然として厳しいまま推移いたしました。同事業を営む株式会社ジャスティス債権回収では、金融機関以外の債権の新規買取や既存債権の１件当たり回収額の極大化、及び昨年度から本格的に取扱いを開始した当社グループの関連当事者が保有する債権の回収請負を含めた受託業務の拡大に注力し、キャッシュ・フローの確保に努めました。

当第３四半期連結累計期間の業績は、売上高は192百万円（前年同期比7.8％減）となりました。

損益面では、グループ全社のコスト削減に継続して取り組んだことや、買取債権の貸倒引当金について追加の積み増しを行わなかったことにより、営業損失は103百万円（前年同期は260百万円の損失）となりました。経常損失は、関連当事者に対する営業外債権に貸倒引当金を1,068百万円計上したこと等により、1,130百万円（前年同期は192百万円の損失）、四半期純損失は1,133百万円（前年同期は210百万円の損失）となりました。

［セグメント別の概況］

①　債権回収事業

債権回収事業につきましては、金融機関からサービサーに売却される債権の入札価格高騰による採算性の悪化で新規債権の購入が低調に留まり、買取債権回収の売上が減少しました。このような状況を踏まえ株式会社ジャスティス債権回収は、新たな収益基盤の確保に向け、法的倒産手続関連債権やリース・クレジット債権等の案件ソーシングチャネルの多様化とともに、人員の増強と法律事務所との協業による債権回収の効率化を図ってまいりました。また、当社グループのリレーションを活かした受託回収を推進した他、集金代行等の付随業務も営業強化し、新規顧客層の開拓に注力しました。

当期間の売上高は189百万円（前年同期比4.9％減）となりました。営業費用は、貸倒引当金繰入額の計上がなかったこともあり、12百万円の営業損失（前年同期は173百万円の損失）となりました。

②　ファクタリング事業

ファクタリング事業につきましては、現在、株式会社ＩＦのクーポンファクタリング事業及び大口ファクタリング事業を休止しており、既存の貸付債権について管理・回収を行っております。

当期間の売上高は３百万円（前年同期比66.7％減）、営業損失は２百万円（前年同期は３百万円の損失）となりました。

（２）財政状態に関する説明

当第３四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,207百万円減少し、2,863百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少、売掛金、買取債権、短期貸付金の回収や貸倒引当金の増加、流動資産のその他に含まれる債権回収業の差入保証金の減少等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ74百万円減少し、1,363百万円となりました。主な要因は、未払金、未払法人税等、流動負債のその他に含まれる預り金の減少等によるものであります。

純資産は、四半期純損失の計上により、前連結会計年度末に比べ1,133百万円減少し、1,500百万円となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年３月期通期の連結業績見通しにつきましては、平成26年11月４日に発表いたしました業績予想値から変更しておりません。

２．サマリー情報(注記事項)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成26年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成26年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	37	22
受取手形及び売掛金	18	7
営業貸付金	982	982
買取債権	5,197	5,160
未収入金	2,890	2,882
その他	207	160
貸倒引当金	△5,351	△6,438
流動資産合計	3,983	2,777
固定資産		
有形固定資産	27	26
無形固定資産		
その他	3	2
無形固定資産合計	3	2
投資その他の資産		
破産更生債権等	609	612
その他	85	85
貸倒引当金	△637	△640
投資その他の資産合計	57	57
固定資産合計	88	86
資産合計	4,071	2,863
負債の部		
流動負債		
短期借入金	16	16
未払金	333	311
未払法人税等	6	3
債務保証損失引当金	913	910
その他	58	23
流動負債合計	1,328	1,264
固定負債		
その他	109	98
固定負債合計	109	98
負債合計	1,437	1,363
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,609	7,609
利益剰余金	△4,975	△6,108
自己株式	△0	△0
株主資本合計	2,633	1,500
純資産合計	2,633	1,500
負債純資産合計	4,071	2,863

（２）四半期連結損益及び包括利益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成26年４月１日 至　平成26年12月31日）
売上高	208	192
売上総利益	208	192
販売費及び一般管理費	468	295
営業損失（△）	△260	△103
営業外収益		
受取利息	11	0
受取手数料	42	44
貸倒引当金戻入額	22	0
雑収入	11	5
営業外収益合計	87	50
営業外費用		
支払利息	3	2
支払手数料	4	4
貸倒引当金繰入額	－	1,068
雑損失	1	1
営業外費用合計	9	9
経常損失（△）	△192	△1,130
特別利益		
子会社清算益	4	－
債権譲渡益	58	－
特別利益合計	63	－
特別損失		
抱合せ株式消滅差損	4	－
債務保証損失引当金繰入額	75	－
特別損失合計	79	－
税金等調整前四半期純損失（△）	△208	△1,130
法人税、住民税及び事業税	1	2
法人税等合計	1	2
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△210	△1,133
四半期純損失（△）	△210	△1,133
四半期包括利益	△210	△1,133
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△210	△1,133
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自　平成25年４月１日　至　平成25年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額（注）1	四半期連結損益及び包括利益計算書計上額
	債権回収	ファクタリング	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	198	9	208	0	208
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	198	9	208	0	208
セグメント損失（△）	△171	△3	△175	△85	△260

（注）１．セグメント損失の調整額△85百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失と調整を行っております。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自　平成26年４月１日　至　平成26年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額（注）1	四半期連結損益及び包括利益計算書計上額
	債権回収	ファクタリング	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	189	3	192	0	192
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	189	3	192	0	192
セグメント損失（△）	△12	△2	△15	△88	△103

（注）１．セグメント損失の調整額△88百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失と調整を行っております。

（訂正前）

平成27年３月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年1月28日

上 場 会 社 名　株式会社ＭＡＧねっとホールディングス　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　8073　URL　http://www.magnet-hd.co.jp
代　表　者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）大島　嘉仁
問合せ先責任者　（役職名）取締役業務部長　（氏名）末松　知史　（TEL）03-5643-0620
四半期報告書提出予定日　平成27年2月13日
配当支払開始予定日　－
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

（百万円未満切捨て）

１．平成27年３月期第３四半期の連結業績（平成26年４月１日～平成26年12月31日）

（１）連結経営成績（累計）　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年３月期第３四半期	192	△7.8	△103	—	△62	—	△64	—
26年３月期第３四半期	208	△23.9	△262	—	△184	—	△261	—

（注）包括利益　27年３月期第３四半期　△64 百万円（　— %）　26年３月期第３四半期　△261 百万円（　— %）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円　銭	円　銭
27年３月期第３四半期	△3.33	—
26年３月期第３四半期	△13.43	—

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年３月期第３四半期	3,932	2,568	65.3
26年３月期	4,071	2,633	64.7

（参考）自己資本　27年３月期第３四半期　2,568 百万円　26年３月期　2,633 百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭
26年3月期	－	0.00	－	0.00	0.00
27年3月期	－	0.00	－		
27年3月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．平成27年３月期の連結業績予想（平成26年４月１日～平成27年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円　銭
通期	245	△17.1	△131	—	△78	—	△80	—	△4.11

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動　：　無

（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規　　社（社名）　　、除外　　社（社名）

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年３月期３Ｑ	19,455,339株	26年３月期	19,455,339株
②　期末自己株式数	27年３月期３Ｑ	907株	26年３月期	830株
③　期中平均株式数（四半期累計）	27年３月期３Ｑ	19,454,476株	26年３月期３Ｑ	19,454,541株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表の四半期レビュー手を実施中です。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料３ページ「（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．サマリー情報(注記事項)に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益及び包括利益計算書 …… 5
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 6
（継続企業の前提に関する注記） …… 6
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 6
（セグメント情報等） …… 6

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間（平成26年４月１日から平成26年12月31日まで）のわが国経済は、緩やかな回復基調が続いたものの、消費増税に伴う駆け込み需要の反動の影響に加え、急速な円安による物価上昇などで個人消費に弱さがみられました。今後、原油価格の下落や日銀の追加量的緩和効果による景気押し上げが期待されますが、先行きに対する不透明感も残っております。

このような状況の下、当社グループは、引き続き主力の債権回収事業に経営資源を集中させ、収益力の改善と安定的な事業運営体制の構築に取り組んでおります。

サービサー業界におきましては、債権入札時の価格競争の熾烈化に伴う仕入価格上昇や回収期間の長期化により買取債権の量・質が低下している影響を受けて、経営環境は依然として厳しいまま推移いたしました。同事業を営む株式会社ジャスティス債権回収では、金融機関以外の債権の新規買取や既存債権の１件当たり回収額の極大化、及び昨年度から本格的に取扱いを開始した当社グループの関連当事者が保有する債権の回収請負を含めた受託業務の拡大に注力し、キャッシュ・フローの確保に努めました。

当第３四半期連結累計期間の業績は、売上高は192百万円（前年同期比7.8％減）となりました。

損益面では、グループ全社のコスト削減に継続して取り組んだことや、買取債権の貸倒引当金について追加の積み増しを行わなかったことにより、営業損失は103百万円（前年同期は262百万円の損失）となりました。経常損失は62百万円（前年同期は184百万円の損失）、四半期純損失は64百万円（前年同期は261百万円の損失）となりました。

［セグメント別の概況］

①　債権回収事業

債権回収事業につきましては、金融機関からサービサーに売却される債権の入札価格高騰による採算性の悪化で新規債権の購入が低調に留まり、買取債権回収の売上が減少しました。このような状況を踏まえ株式会社ジャスティス債権回収は、新たな収益基盤の確保に向け、法的倒産手続関連債権やリース・クレジット債権等の案件ソーシングチャネルの多様化とともに、人員の増強と法律事務所との協業による債権回収の効率化を図ってまいりました。また、当社グループのリレーションを活かした受託回収を推進した他、集金代行等の付随業務も営業強化し、新規顧客層の開拓に注力しました。

当期間の売上高は189百万円（前年同期比4.9％減）となりました。営業費用は、貸倒引当金繰入額の計上がなかったこともあり、12百万円の営業損失（前年同期は173百万円の損失）となりました。

②　ファクタリング事業

ファクタリング事業につきましては、現在、株式会社ＩＦのクーポンファクタリング事業及び大口ファクタリング事業を休止しており、既存の貸付債権について管理・回収を行っております。

当期間の売上高は３百万円（前年同期比66.7％減）、営業損失は２百万円（前年同期は３百万円の損失）となりました。

（２）財政状態に関する説明

当第３四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ139百万円減少し、3,932百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少、売掛金、買取債権、短期貸付金の回収や流動資産のその他に含まれる債権回収業の差入保証金の減少等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ74百万円減少し、1,363百万円となりました。主な要因は、未払金、未払法人税等、流動負債のその他に含まれる預り金の減少等によるものであります。

純資産は、四半期純損失の計上により、前連結会計年度末に比べ64百万円減少し、2,568百万円となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年３月期通期の連結業績見通しにつきましては、平成26年11月４日に発表いたしました業績予想値から変更しておりません。

２．サマリー情報(注記事項)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成26年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成26年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	37	22
受取手形及び売掛金	18	7
営業貸付金	982	982
買取債権	5,197	5,160
未収入金	2,890	2,882
その他	207	160
貸倒引当金	△5,351	△5,370
流動資産合計	3,983	3,845
固定資産		
有形固定資産	27	26
無形固定資産		
その他	3	2
無形固定資産合計	3	2
投資その他の資産		
破産更生債権等	609	612
その他	85	85
貸倒引当金	△637	△640
投資その他の資産合計	57	57
固定資産合計	88	86
資産合計	4,071	3,932
負債の部		
流動負債		
短期借入金	16	16
未払金	333	311
未払法人税等	6	3
債務保証損失引当金	913	910
その他	58	23
流動負債合計	1,328	1,264
固定負債		
その他	109	98
固定負債合計	109	98
負債合計	1,437	1,363
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,609	7,609
利益剰余金	△4,975	△5,039
自己株式	△0	△0
株主資本合計	2,633	2,568
純資産合計	2,633	2,568
負債純資産合計	4,071	3,932

（２）四半期連結損益及び包括利益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成26年４月１日 至　平成26年12月31日）
売上高	208	192
売上総利益	208	192
販売費及び一般管理費	470	295
営業損失（△）	△262	△103
営業外収益		
受取利息	11	0
受取手数料	42	44
貸倒引当金戻入額	22	0
雑収入	11	5
営業外収益合計	87	50
営業外費用		
支払利息	3	2
支払手数料	4	4
雑損失	1	1
営業外費用合計	9	9
経常損失（△）	△184	△62
特別利益		
子会社清算益	4	－
特別利益合計	4	－
特別損失		
抱合せ株式消滅差損	4	－
債務保証損失引当金繰入額	75	－
特別損失合計	79	－
税金等調整前四半期純損失（△）	△259	△62
法人税、住民税及び事業税	1	2
法人税等合計	1	2
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△261	△64
四半期純損失（△）	△261	△64
四半期包括利益	△261	△64
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△261	△64
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自　平成25年４月１日　至　平成25年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額（注）1	四半期連結損益及び包括利益計算書計上額
	債権回収	ファクタリング	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	198	9	208	0	208
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	198	9	208	0	208
セグメント損失（△）	△173	△3	△176	△85	△262

（注）１．セグメント損失の調整額△85百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失と調整を行っております。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自　平成26年４月１日　至　平成26年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額（注）1	四半期連結損益及び包括利益計算書計上額
	債権回収	ファクタリング	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	189	3	192	0	192
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	189	3	192	0	192
セグメント損失（△）	△12	△2	△15	△88	△103

（注）１．セグメント損失の調整額△88百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失と調整を行っております。